

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

分担研究報告書

鍼灸の作用機序に関する科学的根拠の確立と神経内科専門医と連携した  
鍼灸活用ガイドラインの作成に関する研究

片頭痛・緊張型頭痛の鍼治療効果に関する研究

研究分担者 荒木信夫 埼玉医科大学 神経内科

研究要旨：片頭痛の発作予防に対する鍼治療効果、および緊張型頭痛に対する鍼治療効果を検討した。片頭痛のみ（11例）では、頭痛日数が鍼治療前7.9日から鍼治療後2.0日に減少した。慢性片頭痛（5例）では、頭痛日数が鍼治療前23.6日から治療後11.6日に減少した。片頭痛＋緊張型頭痛（21例）では、頭痛日数が鍼治療前22.5日から鍼治療後15.2日に減少した。片頭痛＋薬物乱用頭痛の既往（12例）では、頭痛日数が鍼治療前28.3日から鍼治療後23.7日に減少した。頻発反復性緊張型頭痛（23例）では、有効率が82.6%であった。慢性緊張型頭痛（38例）では有効率が57.9%であった。

片頭痛患者における鍼治療は、片頭痛のみの患者では高い有効性を得られたが、慢性化片頭痛、薬物乱用頭痛などを伴ってくると有効率がやや低下した。しかし、これらは薬剤による治療に抵抗性がつよい頭痛でもあり、鍼治療は薬物療法との併用効果や慢性化の予防効果もあるため、片頭痛治療において、今後さらに検討されるべき分野といえる。

荒木信夫  
埼玉医科大学神経内科教授

±S.D.) において緊張型頭痛予防に対する鍼治療効果を検討した。

(倫理面への配慮)

鍼治療に同意した患者のみににおいて検討した。

## A. 研究目的

片頭痛の発作予防に対する鍼治療効果、および緊張型頭痛に対する鍼治療効果を検討することを目的とした。

## B. 研究方法

1. 片頭痛の発作予防に対する鍼治療効果  
国際頭痛分類第2版（ICHD）の片頭痛と診断された70例（男性22例、女性48例）、平均年齢 $35.5 \pm 14.3$ 歳（mean ± S.D.）において片頭痛の発作予防に対する鍼治療効果を検討した。すなわち、前兆のない片頭痛57例（81.4%）および前兆のある片頭痛13例（18.6%）において検討した。

2. 緊張型頭痛に対する鍼治療効果  
国際頭痛分類第2版（ICHD）の緊張型頭痛と診断された61例（男性16例、女性45例）、平均年齢 $50.8 \pm 17.2$ 歳（mean

## C. 研究結果

1. 片頭痛の発作予防に対する鍼治療効果  
第1群：片頭痛のみ（11例）男性2例 女性7例、年齢 $38.2 \pm 16.1$ 歳（MA 4例、MO 7例）では頭痛日数が鍼治療前7.9日から鍼治療後2.0日に減少した。

第2群：慢性片頭痛（5例）男性1例 女性4例 年齢 $35.0 \pm 18.3$ 歳（MA 2例、MO 8）では頭痛日数が鍼治療前23.6日から鍼治療後11.6日に減少した。

第3群：片頭痛＋緊張型頭痛（21例）男性7例 女性14例、年齢 $42.2 \pm 13.1$ 歳（MA 1例、MO 20例）では頭痛日数が鍼治療前22.5日から鍼治療後15.2日に減少した。

第4群：片頭痛＋薬物乱用頭痛の既往（12例）男性4例 女性8例、年齢 $37.2 \pm 12.1$ 歳（MA 4例、MO 8例）では頭痛日数

が鍼治療前 28.3 日から鍼治療後 23.7 日に減少した。

## 2. 緊張型頭痛に対する鍼治療効果

国際頭痛分類第 2 版 ( ICHD ) の緊張型頭痛と診断された 61 例 ( 男性 16 例、女性 45 例 )、平均年齢  $50.8 \pm 17.2$  歳 ( mean  $\pm$  S.D. ) は以下の 2 群に分けて検討した。

第 1 群：頻発反復性緊張型頭痛 ( 23 例 )  
男性 5 例 女性 18 例

1. 年齢  $51.3 \pm 16.1$  歳
2. 罹病期間  $2383.7 \pm 2888.3$  日
3. 入院 3 例 外来 20 例
4. 薬物療法 18/23 例 78.3%

第 2 群：慢性緊張型頭痛 ( 38 例 ) : 男性 11 例 女性 27 例

1. 年齢  $50.2 \pm 18.3$  歳
2. 罹病期間  $2415.7 \pm 2319.4$  日
3. 入院 9 例 外来 29 例
4. 薬物療法 31/38 例 81.5%

結果としては、頻発反復性緊張型頭痛では、有効率が 82.6% であった。慢性緊張型頭痛では、有効率が 57.9% であった。

自覚症状が 5 割以上改善するまでの期間と回数は、頻発反復性緊張型頭痛では、2.8 回、14.9 日であった。慢性緊張型頭痛では、8.9 回、35.9 日であり、頻発反復性緊張型頭痛の方が少ない回数で短期間に有意に改善した ( $p < 0.01$ )

## 考察

片頭痛患者における鍼治療は、片頭痛のみの患者では高い有効性を得られたが、慢性化片頭痛、薬物乱用頭痛などを伴ってくると有効率がやや低下した。しかし、これらは薬剤による治療に抵抗性がつよい頭痛でもあり、鍼治療は薬物療法との併用効果や慢性化の予防効果もあるため、片頭痛治療において、今後さらに検討されるべき分野といえる。また、片頭痛患者でも、妊娠・妊娠希望など薬物療法が用いづらい患者では非薬物療法の選択肢の一つとして重要である。

緊張型頭痛を頻発反復性緊張型頭痛と慢性緊張型頭痛に分類し検討した結果、効果に差異が認められたことより、頻発反復性緊張型頭痛は、鍼治療を 3 回または 2 週間継続し、慢性緊張型頭痛は鍼治療を 8 回または 6 週間継続し効果判定することが推奨できる。緊張型頭痛を以上 2 つに分け鍼治療を行うことは、緊張型頭痛患者への鍼治療の効果発現までの回数や期間を説明するために有用と考えられる。

## 結論

片頭痛の発作予防に対する鍼治療効果は明らかに認められるため、今後薬物治療との併用、あるいは薬物治療が困難な例において有効と考えられた。また、緊張型頭痛に対する鍼治療効果も明らかにみとめられるため、今後緊張型頭痛の治療においても活用されるべきと考えられた。

## D. 健康危険情報

本研究において健康に危険を及ぼすような情報はない。

## E. 研究発表

### 1. 論文

書籍：

日本神経学会・日本頭痛学会監修.  
慢性頭痛の診療ガイドライン作成委員会編.  
慢性頭痛の診療ガイドライン 2013、東京：  
医学書院； 2013、1-349

荒木信夫．慢性頭痛の診療ガイドライン (2013)．今日の治療指針 2014 東京：医学書院； 2013、1889-1897

雑誌：

荒木信夫．片頭痛と自律神経．ペインクリニック 34 ( 7 ): 913-918、2013

山元敏正、荒木信夫．自律神経疾患の治療の進歩．神経治療 30 ( 4 ): 431-435、2013

荒木信夫．「慢性頭痛の診療ガイドライン  
2013 改訂版」概要と改訂のポイント．  
Mursing BUSINESS 7(8):46-47、2013

荒木信夫．慢性頭痛の診療ガイドライン  
2013 改訂のポイント．日本薬剤師会雑誌  
66(3) 261-264、2014

## 2.学会発表

西洋医学的な治療で期待すべき効果が得られなかった緊張型頭痛に対する鍼治療の臨床的検討 菊池 友和、山口 智、小俣 浩、鈴木 真理、荒木 信夫 神経治療学  
(0916-8443)30 巻 5 号 Page695(2013.09)

薬物乱用頭痛の診断と治療 荒木 信夫  
神経治療学(0916-8443)30 巻 5 号  
Page603(2013.09)

## F. 知的財産権の出願・登録状況

### 1.特許取得

該当なし

### 2.実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし